



なぜ英語の学習は大切なのか

① 近年、英語の重要性が加速度的に増してきています。その主たる理由を考えてみると…

- ア) 国際化・グローバル化が進展する現代では、英語は英語を母語とする人の言語というよりも、それぞれの母語を持ちながらも異なる国の人とコミュニケーションするための手段＝国際共通語になっている。
- イ) よって、キレイな Queen's English が話せなくても（母語訛りがあっても）、英語で意思疎通できるぐらいのレベルは必要となってきます。
- ウ) アジア諸国は英語が出来る人がいっぱい！ このままでは日本はガラパゴスになってしまう!？
(植民地化された経験のある国では英語が普及している場合がある)
- エ) よって日本人にとって、英語は意識して勉強しないと出来るようにはならない教科なので、その人の学力や努力の度合いを測るのに適している。
- オ) 大学や専門学校、その先の実社会における仕事の現場では、英文を読まなければならない場面が今後いっそう増えていく。
- カ) 近年言われるようになった「論理的な思考」をするために、実は英語はもともと適した言語である。

② 論理的思考力とは、頭の中で言語やイメージを構成したうえで、それを文章や言葉で明快に表現する能力のことです。

実はこの作業に、英語はもともと適している言語なのです。下記を見てください。

It is foolish to think that smoking has little to do with cancer.

(喫煙がガンとほとんど関係が無いと思うのは、愚かなことです)

カッコ内の日本語のほうを読んでみると（または音声で聞いてみると）「喫煙がガンとほとんど関係が無い…」と、途中の段階までは「喫煙とガンは関係ないのだ!」とも理解できてしまいます。最後まで聞かないと、両者が無関係と思うことが愚かなのか良いことなのか分からない。

しかし英語の場合は、“It is foolish to …” とまず「愚かなことだ」と宣言したあとに、愚かな行為の事例を述べていく。何となればさらにカンマをつけて、複数の事例を列挙することもできる。

実はこれは、大学入試などで課される小論文の書き方や論理構成とも似ているのです。

例…私の意見は◎◎だ。その理由はAであり、Bであり、Cである。ゆえに私の意見は◎◎だ。

もちろん、英語ができれば論文がうまく書けるというわけではありません。

③ 知的な思考力や論文の筆力を高めるには…

- ア) 自己の知識・関心を広げること。
- イ) この世の様々な事象に関心と疑問を持ち、自分の頭で考え、調べようとする。
- ウ) 良質な本を読むこと。日頃からきちんとした日本語で話し、書くことです。



④ 英語の学習は白いご飯

英語の勉強は、例えて言うなら白いご飯を食べることです。なぜなら、どちらも毎日のものだからです。

もし貴方がいくらステーキを好きだからといって、毎晩ステーキを食べることはないでしょう。魚が好きだからといって、毎晩寿司を食べることもないでしょう。

でも、どんな人もご飯はほとんど毎日食べるのではないのでしょうか？ 肉や魚はその日によって…、であるように、理科や社会は勉強する日もあればしない日もあるでしょう。しかし英語は毎日やらなければなりません。白いご飯を食べるように、毎日単語帳を開いて語彙力を増やしていかなければ（もちろん文法も!）、英語ができるようになるはずはありません。もちろんこれを描いている僕も、高校時代はそうしてきました。

「コスパ」の良い勉強法なんてありません。

小さな努力を、地味に、末長く積み重ねていくことができる人かどうか？

追い風でも調子に乗らず、向かい風でもめげずに淡々と進み続けられるか？

皆さんが社会に出たときに問われるのも、きっとそういうことだと思います。（平成29年第5号に加筆・修正）